

令和 6 年度()第 4 号

事業名： 名張市公共下水道事業

件 名： 富1幹線下水工事（推進2工区）

仕 様 書

事業主体 名張市

施行主体 名張市

設 計 概 要 書	
施行場所	名張市 富貴ヶ丘5番町 地内
設計金額	一 金 円
	(内消費税 円)
工期	日間
	(令和7年3月17日 迄)
事業量	L=148.08m
工事の概要（摘要）	
下水工事（基幹）	
路線延長：L=148.08m	
管路布設延長：L=144.78m	
管種（HP φ250）（推進：泥水式1工程式）L=119.71m	
管種（PPR φ200）（開削）L=25.07m	
立坑工：1箇所	
マンホール設置工：5箇所	
地盤改良工：1式	
試掘工：1式	
付帯工：1式	



位置図

施行箇所

富貴ヶ丘5番町

富貴ヶ丘5番町

富貴

富貴

特記仕様書

1. 本工事の施工は、契約図書に基づき、下記に示す図書（以下「共通仕様書」という）のほか、この特記仕様によるものとする。

- (1) 名張市契約規則
- (2) 三重県 県土整備部制定「三重県公共工事共通仕様書」
- (3) 日本下水道協会発行「下水道施設設計指針と解説」

2. この特記仕様書と共通仕様書並びに契約図書の記載内容に差異があった場合の優先順位は下記の通りとする。

- 1. 特記仕様書 2. 契約図書 3. 共通仕様書

3. 総則

(1) 設計図書の照査

.....受注者は、契約後速やかに本市が交付した工事図書の照査を行い、その結果を監督員に報告すること。.....

(2) 施工計画

共通仕様書等にするものとする。

(3) 工事用地の使用

共通仕様書等にするほか、下記によるものとする。

.....工事に伴う民地等の借地については、事前に地主の承諾を文書で取り交わすこと。又、借地に伴い、周辺の土地に支障を与えないように地元関係者と協議し承諾を得てから施工すること。この場合、地元要望等の措置は、受注者の負担で行うこと。又、工事により施設等を破損させた場合は受注者の負担で補修を行うこと。農地を借地する場合は農地の転用の手続きを行うこと。受注者名・電話番号を記入した看板を見易い位置に設置し、近隣住民へ迷惑のないよう努めること。.....

4. 使用材料

(1) 本工事に使用する材料は、共通仕様書に示すほか、下記の基準並びに仕様による。

.....JIS 規格表示及び日本下水道協会認定の製品及びこれに準ずるものであること。工事材料の使用にあたっては、規格証明書等を添付した使用材料調書を提出すること。承認に当たっては試験及び検査を実施することがある。.....

(2) 材料確認（検査）調書

.....共通仕様書等にするほか、使用材料については材料確認（検査）調書を数日前に監督員に提出し、確認（検査）を受けること。.....

5. 施工及び施工管理

(1) 本工事の施工に関し、共通仕様書等によるほか、下記によること。

1. 常に工事の安全に留意し、現場管理を行い災害の防止に努めること。尚、受注者負担の工事に起因する損害発生の予防措置等についての報告をすること。又、発生した損害

の応急措置並びに復旧についても受注者の負担で行うものとする。

2. 施工機械については、排出ガス対策型とするが、使用が困難な場合は理由書の提出により変更する場合もある。排出ガス対策型建設機械を使用する場合は、施工計画書の中で、(1)機種 (2)メーカー名 (3)形式 (4)台数等を記載するものとする。又、「指定ラベル」が確認できる工事写真を提出するものとする。尚、排出ガス対策型建設機械を使用しない場合は、設計変更の対象とする。但し、機械損料に差額のない機種についてはこの限りでない。

(2) 施工工法について

1. 現場状況や試掘結果、関係機関との協議等により、施工工法や機械機種等を変更する場合がある。人土工については小型機械施工に変更する場合がある。
2. 仕様書等にある土留工は標準的なものである。施工時に受注者において土質・地下水位等現場状況を把握し土留工法等を検討、構造計算を行い作業の安全と確実性を確保すること。
3. 本工事の推進工法は、高耐荷力方式 泥水式 1 工程式 HP ϕ 250 (土質は縦断図参照) で設計している。同等以上の工法で安全な施工を行うこと。
4. 地盤改良工は、薬液注入工・二重管ストレーナ工法。複相式で設計している。同等以上の品質を有する工法で安全な施工を行うこと。又、施工時には、周辺地盤の隆起などに注意し変化等がある場合は、施工を一時中止し監督員へ報告・立会を行うこと。
5. プライムコートの使用量は 1.20/m² とし、タックコートの使用量は 0.40/m² とする。
6. 変更設計は、実績日数に関わらず積算日進量・積算日数により精算を行う。

(3) 本工事で発生する残土等は、下記により処分すること。

1. 名張市が指定する公共残土捨場 (名張市上比奈知字松尾) に処分すること。但し、名張市土木協力会協同組合に届出を行うこと。
2. 公共事業での現場間で残土流用する場合については、事前協議したうえでこれを優先する事ができる。
3. コンクリート殻・アスファルト殻の処分については、それぞれの殻処分が可能な再生再資源化施設にて処分すること。当設計では、現在受入れを行っている事が確認できた施設を比較し運搬費 (L=12.3 km) 及び受入れ料金を計上している。これより近距離の施設で処分した場合は変更対象とする場合がある。
4. 舗装切断時に発生する排水 (泥水) は産業廃棄物として適正に処理するものとする。

(4) 交通誘導員の体制は、下記によること。

各施工箇所における交通誘導員の配置は次のとおりとする。

A : 1 名 B : 1 名を基本配置 (推進 No. 1、No. 3、開削、試掘、舗装本復旧)

A : 1 名 B : 2 名を基本配置 (推進 No. 2)

但し、別途交代要員として (A) 1 名を配置すること。

地元調整、交通量、関係機関等との協議により交通誘導員の配置・員数に変更となる場合がある。尚、変更設計は、実績員数に関わらず積算日数と配置員数により算出する。

(5) 他埋設物の支障移転等について

本工事の施工に伴いガス管・水道管等などが支障となる場合には、工事を一時中止し、

現場状況等を正確に記録した後、監督員へ報告並びに現場確認を行い、監督員と共に関係機関との協議を行った結果及び監督員の指示による対応を行うこと。

(6) その他

1. マンホールの設置高は、舗装本復旧施工前に計画高さを確認し施工すること。
2. 既設占用物件の管理者との協議、また樹位置の変更等により管路ルート及び縦断が変更となる場合がある。
3. 立坑設置箇所の覆工においては、通行に支障がないよう、又、振動及び騒音等が発生しないように作業を行うこと。作業時間外における立坑覆工箇所での振動や騒音等の苦情が発生した場合には、速やかに対応すること。
4. 立坑作業箇所においては、昇降設備、送風機、酸素濃度測定等の安全施設を設置すること。また作業員の昇降に際しては、安全带、セーフティブロック等を使用して転落・墜落防止に努めなければならない。
5. 本工事の一部区間において、近接する水道工事があるため、受注者は監督員及び施工業者並びに関係機関と協議のうえ工程調整を行うこと。また、本工事に伴う移設工事等が発生する場合において、作業時間の減少及び効率の低下等については、設計上の考慮はしない。
6. 交通障害については、監督員及び各関係機関（消防署等）に施工箇所・規制状況の連絡を施工前日までに行うこと。又、作業終了後は速やかに、監督員及び各関係機関へ作業終了の報告をすること。但し、連絡、報告の方法等については、監督員及び各関係機関との協議及び指示に従い実施すること。
7. 交通規制については、他工事の規制も考慮した上で地元調整を行い、工事看板及び回覧等により住民及び関係者に周知すること。工事を円滑、効率的に実施する為、受注者は、工事着工前は勿論のこと、工事中においても、必要に応じて工事内容（交通障害等）を住民及び通行者へ周知するとともに、協力を得るための必要な対策を講じること。
8. 受注者の都合により、住民及び関係者へ周知した工程を変更しないこと。
9. 本工事における休工日は日曜日・祝日・ほか（年末年始・地元行事など）、作業時間は8:30～17:00を基本とする。
10. 管渠開削工は、毎日埋戻し・仮舗装を行い清掃後現場開放すること。
11. 種類に関わらず既設埋設物等が掘削断面内で確認された場合は、下流人孔からの距離を黒板に記入し掘削完了時点の写真を撮ること。又、事前調査で確認していない埋設物の場合は、出来る限り所有者や使用状態、又、埋設状況等を詳細に確認し監督員へ報告すること。埋戻し時は、埋設物下まで確実な埋戻し等を施工し、転圧状況、保護砂等施工状況、埋設表示シート設置状況等の記録をすること。記録や報告が無く、工事後、埋設物所有者や使用者等から埋設物に関係する異常等申し出があった場合には、受注者の責任において、地元調整及び修繕工事等の対応を速やかに実施すること。
12. 工事により少なからず現場（土場や資材置場付近及びそれらから現場までの経路を含む）を汚すので、ゴミや側溝の土砂等を清掃すること。又、着手前現場照査により、除去できないと判断されるゴミや側溝の土砂は事前に記録し監督員へ報告すること。
13. 既設埋設管や構造物等のバックホウによる叩き割りや、重機運転による、バックホウ

のキャタピラを浮かせる行為は近隣家屋へ大きな振動を発生させるため実施してはならない。この様な行為が現場で確認されるか、若しくは、住民や関係者等から報告がある場合には、受注者への指導を行うと共に、現場を一時的に中止する場合がある。この場合に発生する工事期間の遅延等については、受注者の責務として認識し、受注者の責任において、住民並びに関係者等へ周知すること。又、この行為が原因と思われる家屋その他施設への影響がある場合には、住民への対応及び家屋その他施設への損害補償等を受注者の責任において実施すること。

14. 既設人孔接続部は本管に止水工を施し、本管に湧水や洗浄水等を流さないこと。
15. 家屋調査が必要となる場合は、「管渠工事施工基準 1. 家屋調査」(名張市下水道建設室)に準ずること。
16. 受注者は、契約後速やかに既設鋼製立坑 NO. 3 (φ1500) の覆工について監督員と協議を行い、遅滞なく鋼製覆工板を調達し設置すること。

6. 提出書類等

(1) 共通仕様書等による提出書類のほか、下記の書類を提出すること。

1. 監督員が必要と指示する書類を提出すること。又、提出は監督員の指示する期限を厳守すること。
2. 工事完成通知書には、各路線で着工前・施工中・完成をまとめた写真帳を 2 部添付すること。
3. 着工前と完成後で現場状況(構造物・舗装等)を対比できる写真を提出すること。特に、工事沿線の家屋・擁壁・塀・その他すべての構造物・官民境界付近・民民境界付近は所有者確認うえで撮影(必要に応じ立会写真必要)しておくこと。全景写真、工事前後でクラック等の有無や比較ができる大きさで記録すること。尚、工事施工に伴って通常発生する物件等の毀損の補修及び騒音、振動、濁水、交通騒音等による事業損失に係る補償費は現場管理費に含まれる。
4. 提出書類はA4判チューブファイルに整理し、ジョイント金具付ダンボールキャビネット(A4判用)に収納して納品すること。そのほか監督員の指示によるものとする。

7. その他

1. 受注者の過失が認められる補償は、受注者の負担とする。又、受注者の立場としての地元調整を行い、調整不足による苦情等は、受注者で解決すること。
2. 図面中の既設埋設物等は机上調査によるものである。既設埋設物の調査、各管路の管理者との立会い依頼・調整等は受注者において行い、試掘必要箇所を選定及び施工をすること。
3. 管路及び取付管等の施工については、地元調整が出来た箇所から工程を組むこと。又、調整できない箇所については、本工事から削除する場合がある。
4. 管路埋設後、又は、工事完成後に管内TV調査(別途、市より調査業者へ委託)を実施するので、調査業者との工程調整の後、交通障害等に係る地元調整及び洗管を行うこと。この調査の結果、名張市の「TV調査判定の基準」に基づきBランク以上の箇所及びCランクで自主的に補修する箇所は、速やかに受注者の責任において補修を行うこと。但し、

補修着手前に監督員へ施工計画書を提出し、協議を行うこと。又、補修完了後、補修箇所の写真や TV カメラによる画像等を監督員へ提出し確認を受けること。但し、補修箇所を目視できる場合はその限りではない。

5. 地下埋設物探査の試掘、本管・取付管が地下埋設物と交差する施工は、各施設管理者に立会い依頼をしなければならないうえ、万一の事故対応に問題があるため、休工期・土曜日・作業時間外は行わないこと。
6. 用便は所定の場所（仮設トイレの設置等）で行うこと。現場には灰皿・ゴミ箱を設置し、必ずこれを使用すること。交通誘導員を含め全作業員に徹底すること。
7. 工事中表示板（工事看板）には、受注者名と電話番号、発注者名（名張市下水道建設室）と電話番号（0595-63-7812）を明記すること。
8. 特記仕様書・契約図書・共通仕様書に定めのない事項や変更が必要な事項については、監督員の指示によるものとする。

工事数量総括表

		工事名	富1幹線下水工事（推進2工区）	当初	事業区分	下水道		
					工事区分	管路		
工事区分・工種・種別・細別			規格	単位	前回数量	今回数量	数量増減	摘要
管路				式		1		
管きょ工(開削)＜管径φ200mm＞				式		1		
管路土工				式		1		
管路掘削				m3		48		
管周埋戻（砂）			BH0.1m3 (タンバ° 無)	m3		6.7		
管路埋戻（RC-40）			BH0.1m3	m3		37		
発生土運搬			L=6.2km 路面良好 BH0.1m3	m3		48		
残土処分費（公共残土捨場）				m3		48		

工事数量総括表

		工事名	富1幹線下水工事（推進2工区）	当初	事業区分	下水道		
					工事区分	管路		
工事区分・工種・種別・細別			規格	単位	前回数量	今回数量	数量増減	摘要
管布設工				式		1		
リブ付硬質塩化ビニル管設置工			呼び径200	m		25.1		
管基礎工				式		1		
砂基礎			BH0.1	m3		2.4		
管路土留工				式		1		
軽量鋼矢板建込 d≦3.0			掘削深2.6;軽量鋼矢板型式W333	m		2		
軽量鋼矢板建込 d≦2.5			掘削深1.9;軽量鋼矢板型式W333	m		22		
軽量鋼矢板引抜 d≦3.0			掘削深2.6;軽量鋼矢板型式W333	m		2		

工事数量総括表

		工事名	富1幹線下水工事（推進2工区）	当初	事業区分	下水道		
					工事区分	管路		
工事区分・工種・種別・細別			規格	単位	前回数量	今回数量	数量増減	摘要
軽量鋼矢板引抜 d≦2.5			掘削深1.9;軽量鋼矢板型式W333	m		22		
軽量鋼矢板賃料 L=3.0m			BH0.1 W=333	m		2		
軽量鋼矢板賃料 L=2.5m			BH0.1 W=333	m		22		
軽金支保設置・撤去工 2段			アルミ腹起・水圧サポート・水圧ポンプ	m		2		
軽金支保設置・撤去工 1段			アルミ腹起・水圧サポート・水圧ポンプ	m		22		
軽金支保賃料 2段			アルミ腹起・水圧サポート・水圧ポンプ	m		2		
軽金支保賃料 1段			アルミ腹起・水圧サポート・水圧ポンプ	m		22		
マンホール工				式		1		

工事数量総括表

		工事名	富1幹線下水工事（推進2工区）	当初	事業区分	下水道		
					工事区分	管路		
工事区分・工種・種別・細別			規格	単位	前回数量	今回数量	数量増減	摘要
組立マンホール工				式		1		
1号組立マンホール設置工				箇所		1		
底部工（1号）全て施工　パッキン打設			敷厚保0.2m 再生碎石（RC-40）BB18-8-40 W/S=60%以下 通常	箇所		1		
組立1号マンホール材料			平均マンホール深1.4;蓋の耐荷重14	式		1		
2号組立マンホール設置工				箇所		1		
底部工（2号）全て施工　パッキン打設			敷厚保0.2m 再生碎石（RC-40）BB18-8-40 W/S=60%以下 通常	箇所		1		
組立2号マンホール材料			平均マンホール深2.5;蓋の耐荷重14	式		1		
小型マンホール工				式		1		

工事数量総括表

		工事名	富1幹線下水工事（推進2工区）	当初	事業区分	下水道		
					工事区分	管路		
工事区分・工種・種別・細別			規格	単位	前回数量	今回数量	数量増減	摘要
小型レジンマンホール設置工			材質レジン;規格1.5m以下;平均マンホール深1.23	箇所		1		
小型レジンマンホール基礎工			RC-40 t=200 本管 φ 150・200一般地盤用	箇所		1		
小型レジンマンホール材料				式		1		
付帯工				式		1		
舗装仮復旧工				式		1		
As舗装版切断工 t≦15cm			アスファルト舗装版 15cm以下	m		53		
汚泥運搬工			L=41.6km DID区間無	m3		0.3		
建設廃棄物受入れ料金（汚泥）				m3		0.3		

工事数量総括表

		工事名	富1幹線下水工事（推進2工区）	当初	事業区分	下水道		
					工事区分	管路		
工事区分・工種・種別・細別			規格	単位	前回数量	今回数量	数量増減	摘要
As舗装版直接掘削積込工			t≦10 山積0.13m3 (0.10m3)	m2		25		
As殻運搬工			舗装版破碎 BH0.13+DT2t L=10km DID無	m3		0.83		
建設廃棄物受入れ料金（As塊）				m3		0.83		
As仮復旧 t=30			人力 1層当り平均仕上り厚30mm 再生密粒度アスファルト混合物（13）	m2		25		
舗装本復旧工				式		1		
As舗装版切断工 t≦15cm			アスファルト舗装版 15cm以下	m		22		
汚泥運搬工			L=41.6km DID区間無	m3		0.1		
建設廃棄物受入れ料金（汚泥）				m3		0.1		

工事数量総括表

		工事名	富1幹線下水工事（推進2工区）	当初	事業区分	下水道		
					工事区分	管路		
工事区分・工種・種別・細別			規格	単位	前回数量	今回数量	数量増減	摘要
As舗装版直接掘削積込工			t≤10 山積0.13m3 (0.10m3)	m2		58		
As殻運搬工			舗装版破砕 BH0.13+DT2t L=12.3km D ID無	m3		2.1		
建設廃棄物受入れ料金（As塊）				m3		2.1		
掘削工			クローラ 山積0.13m3（平積0.10m3）	m3		0.66		
発生土運搬工			ダンプトラック2t 6.2km 路面良好 バックホウ クローラ型山積0.13m3（0.10m3）	m3		0.66		
残土処分費（公共残土捨場）				m3		0.66		
不陸整生工（機械）			無し	m2		58		
上層路盤工 t=100			粒度調整砕石 M-30 全体仕上り厚100 mm	m2		5.8		

工事数量総括表

		工事名	富1幹線下水工事（推進2工区）	当初	事業区分	下水道		
					工事区分	管路		
工事区分・工種・種別・細別			規格	単位	前回数量	今回数量	数量増減	摘要
As表層工 Pコート t=50 機械 1.4≤b			1層当り平均仕上り厚50mm, 再生密粒度アスファルト混合物（13）	m2		22		
As表層工 Pコート t=30 人力 歩道 b<1.4			1層当り平均仕上り厚30mm, 再生密粒度アスファルト混合物（13）	m2		36		
区画線工				m		2.2		
管きょ工(小口径推進)＜管径250mm＞＜泥水工法＞（1155-1、-2路線）				式		1		
小口径泥水推進工（1155-1、-2路線）				式		1		
推進用鉄筋コンクリート管(小口径泥水)（1155-1、-2路線）			管径250	m		118.3		
発生土処理				m3		7.6		
残土処分費（公共残土捨場）				m3		7.6		

工事数量総括表

		工事名	富1幹線下水工事（推進2工区）	当初	事業区分	下水道		
					工事区分	管路		
工事区分・工種・種別・細別			規格	単位	前回数量	今回数量	数量増減	摘要
立坑内管布設工（1155-1、-2路線）				式		1		
鉄筋コンクリート管（1155-1、-2路線）			規格HP;管径250;支給の有無無	m		1.4		
仮設備工(小口径)（1155-1、-2路線）				式		1		
坑口(小口径)（1155-1、-2路線）			発進	箇所		2		
坑口(小口径)（1155-1、-2路線）			到達	箇所		2		
発進鏡切り（1155-1、-2路線）			土留め形式小型立坑	箇所		2		
到達鏡切り（1155-1、-2路線）			土留め形式小型立坑	箇所		1		
推進設備等設置撤去（1155-1、-2路線）			設置・撤去の別据付・撤去	箇所		1		

工事数量総括表

		工事名	富1幹線下水工事（推進2工区）	当初	事業区分	下水道		
					工事区分	管路		
工事区分・工種・種別・細別			規格	単位	前回数量	今回数量	数量増減	摘要
送・排泥設備工（1155-1、-2路線）				式		1		
送・排泥設備（小口径泥水）（1155-1、-2路線）				式		1		
泥水处理設備工（1155-1、-2路線）				式		1		
泥水处理設備（小口径泥水）（1155-1、-2路線）				式		1		
泥水運搬処理（1155-1、-2路線）			運搬距離41.6km	m3		45		
立坑工（鋼製立坑）φ2000（No.2）				式		1		
管路土工φ2000（No.2）				式		1		
発生土処理				m3		27		

工事数量総括表

		工事名	富1幹線下水工事（推進2工区）	当初	事業区分	下水道		
					工事区分	管路		
工事区分・工種・種別・細別			規格	単位	前回数量	今回数量	数量増減	摘要
ケーシング埋戻 φ 2000（No. 2）			ケーシング径2000 RC-40	m3		2.5		
ケーシング埋戻 φ 2000（No. 2）			ケーシング径2000 貧モル	m3		14		
残土処分費（公共残土捨場） φ 2000（No. 2）				m3		27		
鋼製ケーシング式土留工及び土工 φ 2000（No. 2）				式		1		
鋼製ケーシング圧入掘削 φ 2000（No. 2）				m		8.2		
底部コンクリート φ 2000（No. 2）				箇所		1		
圧入掘削設備 φ 2000（No. 2）				箇所		1		
鋼製ケーシング存置 φ 2000（No. 2）			呼び径2000	m		8.2		

工事数量総括表

		工事名	富1幹線下水工事（推進2工区）	当初	事業区分	下水道		
					工事区分	管路		
工事区分・工種・種別・細別			規格	単位	前回数量	今回数量	数量増減	摘要
仮設ケーシング 損料 φ 2000（No. 2）			呼び径2000	式		1		
円形覆工板 φ 2000（No. 2）				箇所		1		
ケーシング撤去 φ 2000（No. 2）				箇所		1		
立坑工（既設鋼製立坑） φ 1500 No. 3				式		1		
管路土工 既設 φ 1500（No. 3）				式		1		
ケーシング埋戻 既設 φ 1500（No. 3）			ケーシング径1500 RC-40	m3		0.69		
ケーシング埋戻 既設 φ 1500（No. 3）			ケーシング径1500 貧モル	m3		5.6		
鋼製ケーシング式土留工及び土工 既設 φ 1500（No. 3）				式		1		

工事数量総括表

		工事名	富1幹線下水工事（推進2工区）	当初	事業区分	下水道		
					工事区分	管路		
工事区分・工種・種別・細別			規格	単位	前回数量	今回数量	数量増減	摘要
円形覆工板 既設 φ 1500（No. 3）				箇所		1		
ケーシング撤去 既設 φ 1500（No. 3）				箇所		1		
地盤改良工				式		1		
補助地盤改良工				式		1		
薬液注入			注入材料溶液型無機系	本		5		
マンホール工				式		1		
1号組立マンホール工No. 3（1155-1M1）				式		1		
組立マンホール設置工			平均マンホール深6.7;蓋の耐荷重14	箇所		1		

工事数量総括表

		工事名	富1幹線下水工事（推進2工区）	当初	事業区分	下水道		
					工事区分	管路		
工事区分・工種・種別・細別			規格	単位	前回数量	今回数量	数量増減	摘要
底部工（1号）インバートのみ バックホ打設			再生砕石（RC-40）BB18-8-40 W/S=60%以下 通常	箇所		1		
底部工（1号）基礎工のみ			平均マンホール深6.7;蓋の耐荷重14	箇所		1		
組立1号マンホール材料			平均マンホール深6.7;蓋の耐荷重14	式		1		
1号組立マンホール工No.2（1155-2M1）				式		1		
組立マンホール設置工			平均マンホール深7.3;蓋の耐荷重14	箇所		1		
底部工（1号）インバートのみ バックホ打設			再生砕石（RC-40）BB18-8-40 W/C=60%以下 通常	箇所		1		
底部工（1号）基礎工のみ			平均マンホール深7.3;蓋の耐荷重14	箇所		1		
組立1号マンホール材料				式		1		

工事数量総括表

		工事名	富1幹線下水工事（推進2工区）	当初	事業区分	下水道		
					工事区分	管路		
工事区分・工種・種別・細別			規格	単位	前回数量	今回数量	数量増減	摘要
付帯工				式		1		
舗装仮復旧工（推進）No. 3				式		1		
As仮復旧 t=30			再生密粒度アスコン(13)；舗装厚30mm；平均幅員1.4以上3.0以下(1層当り平均仕上り厚50mm以下)	m2		1.8		
舗装仮復旧工（推進）No. 2				式		1		
As舗装版切断工 t≦15cm			アスファルト舗装版 15cm以下	m		6.4		
As舗装版直接掘削積込工			BH0.45 t≦15	m2		3.2		
As殻運搬工			舗装版破碎 BH0.45+DT10t L=12.3km DID無	m3		0.16		
建設廃棄物受入れ料金（As塊）				m3		0.16		

工事数量総括表

		工事名	富1幹線下水工事（推進2工区）	当初	事業区分	下水道		
					工事区分	管路		
工事区分・工種・種別・細別			規格	単位	前回数量	今回数量	数量増減	摘要
As仮復旧 t=30			再生密粒度アスコン(13)；舗装厚30mm；平均幅員1.4以上3.0以下(1層当り平均仕上り厚50mm以下	m2		3.2		
舗装本復旧工（推進）No.2 No.3				式		1		
As舗装版切断工 t≤15cm			アスファルト舗装版15cm以下	m		34		
As舗装版直接掘削積込工			BH0.45 t≤15	m2		54		
As殻運搬工			殻種別舗装版破碎	m3		2.4		
建設廃棄物受入れ料金（As塊）				m3		2.4		
掘削工			BH0.45	m3		0.84		
発生土運搬工				m3		0.84		

工事数量総括表

		工事名	富1幹線下水工事（推進2工区）	当初	事業区分	下水道		
					工事区分	管路		
工事区分・工種・種別・細別			規格	単位	前回数量	今回数量	数量増減	摘要
残土処分費（公共残土捨場）				m3		0.84		
不陸整生工（機械）				m2		54		
上層路盤工 t=100				m2		7.4		
As表層工 Pコート t=50 機械 1.4≦b<3.0				m2		45		
As表層工 Pコート t=30 機械 1.4未満				m2		9.2		
仮設工				式		1		
交通管理工				式		1		
交通誘導警備員（推進）				式		1		

工事数量総括表

		工事名	富1幹線下水工事（推進2工区）	当初	事業区分	下水道		
					工事区分	管路		
工事区分・工種・種別・細別			規格	単位	前回数量	今回数量	数量増減	摘要
交通誘導警備員（開削・本復旧）				式		1		
直接工事費				式		1		
共通仮設				式		1		
共通仮設費				式		1		
運搬費				式		1		
重建設機械分解組立輸送費				回		1		
仮設材運搬費（推進）				t		3.3		
仮設材運搬費（開削）				t		2.6		

工事数量総括表

		工事名	富1幹線下水工事（推進2工区）	当初	事業区分	下水道		
					工事区分	共通仮設費		
工事区分・工種・種別・細別			規格	単位	前回数量	今回数量	数量増減	摘要
事業損失防止施設費				式		1		
家屋調査費				式		1		
地下水観測費				式		1		
共通仮設費（率計上）				式		1		
純工事費				式		1		
現場管理費				式		1		
工事原価				式		1		
一般管理費等				式		1		

工事数量総括表

		工事名	富1幹線下水工事（推進2工区）	当初	事業区分	下水道		
					工事区分	共通仮設費		
工事区分・工種・種別・細別			規格	単位	前回数量	今回数量	数量増減	摘要
スクラップ [°] H1) 1. 83				式		1		
工事価格				式		1		
消費税相当額				式		1		
工事費計				式		1		

工事数量総括表

		工事名	富1幹線下水工事（推進2工区）試掘	当初	事業区分	下水道		
					工事区分	管路		
工事区分・工種・種別・細別			規格	単位	前回数量	今回数量	数量増減	摘要
管路				式		1		
試掘工(開削)				式		1		
付帯工				式		1		
試掘工				式		1		
As舗装版切断工 t≦15cm			アスファルト舗装版 15cm以下	m		18		
As舗装版直接掘削積込工			t≦10 山積0.13m3(0.10m3)	m2		6.8		
As殻運搬工			舗装版破碎 BH0.13+DT2t L=12.3km D ID無	m3		0.34		
建設廃棄物受入れ料金（As塊）				m3		0.34		

工事数量総括表

		工事名	富1幹線下水工事（推進2工区）試掘	当初	事業区分	下水道		
					工事区分	管路		
工事区分・工種・種別・細別			規格	単位	前回数量	今回数量	数量増減	摘要
掘削工			クローラ 山積0.13m3（平積0.10m3）	m3		10		
管周埋戻工（砂）			BH0.13（タンパ無）	m3		2		
埋戻工（RC-40）			BH0.13	m3		9.9		
発生土運搬工			ダンプトラック2t 6.2km 路面良好 ハックホクローラ型山積0.13m3（0.10m3）	m3		10		
残土処分費（公共残土捨場）				m3		10		
As仮復旧 t=30			人力 1層当り平均仕上り厚30mm 再生密粒度アスファルト混合物（13）	m2		6.8		
仮設工				式		1		
交通管理工				式		1		

工事数量総括表

		工事名	富1幹線下水工事（推進2工区）試掘	当初	事業区分	下水道		
					工事区分	管路		
工事区分・工種・種別・細別			規格	単位	前回数量	今回数量	数量増減	摘要
交通誘導警備員				式		1		
直接工事費				式		1		
共通仮設費				式		1		
共通仮設費				式		1		
共通仮設費（率計上）				式		1		
純工事費				式		1		
現場管理費				式		1		
工事原価				式		1		

工事数量総括表

		工事名	富1幹線下水工事（推進2工区）試掘	当初	事業区分	下水道		
					工事区分	共通仮設費		
工事区分・工種・種別・細別			規格	単位	前回数量	今回数量	数量増減	摘要
一般管理費等				式		1		
工事価格				式		1		
消費税相当額				式		1		
工事費計				式		1		